

昭和十九年（一九四四）

一月

- ・各消防署員 南方占領地へ派遣 現地人の教育担当
- ・警視庁 街頭易者四〇〇〇人の規制に
- ・東京の国民学校 味噌汁給食開始
- ・戦時官吏服務令公布
- ・新防空法公布
- ・建物疎開に強権発動
- ・学徒動員は年間四ヶ月継続と決定
- ・主要都市で疎開状況調査申告書配布
- ・軍需省 電力制限実施 最高四〇%
- ・大本営 インパール作戦命令
- ・一五〇社が軍需会社（第一次）
- ・総合雑誌が『公論』などの三誌に統合
- ・新丸ビル建設工事中断

- ・航空工業会設立
- ・一四歳〜二五歳の未婚女性 軍需工場へ派遣
- ・全国温泉旅館が厚生寮に衣替え
- ・鉄道運賃値上げ
- ・西瓜、メロンなど生産禁止
- ・大本営 大陸打通作戦を命令
- ・内務省 東京 名古屋に初の建物疎開を命令
- ・鐘淵工業（株）設立
- ・ラバウルの兵士間で「コックリさん」が大流行
- ・『中央公論』『改造』の編集者 治安維持法違反で検挙（横浜事件） 特高による言論弾圧

二月

- ・国技館 軍に接収される
- ・都のビヤホール、喫茶店が雑炊食堂に。雑炊一杯三〇銭
- ・有効期間二年の新衣料切符発行
- ・朝鮮総督府 国民徴用令発動

- ・百貨店 開店を三〇〜六〇分遅らせる
- ・愛国イロハカルタ売出し
- ・女学生の戦時服制定
- ・天皇 陸海軍の主張対立を憂慮
「陸海軍の首脳部が遂に意見一致せず、惹ては政変を起すが如きことがあつては国民はそれこそ失望……」と(『木戸幸一日記』下巻より)
- ・後樂園で木下サーカス 大人一円八〇銭 小人七五銭
- ・マーシャル群島の守備隊六八〇〇人玉砕
- ・明治製菓 東宝映画館など立ち退き開始
- ・間接税引き上げ 五円以上の食事に八割課税
- ・中学四年制にくり上げ
- ・義務教育 満一二歳迄に引き下げ決定
- ・軍人、官吏は無試験で中学教員に
- ・青年師範学校設立
- ・アメリカ トラック島空襲 日本は戦艦四三隻、航空機二七〇機の損失
- ・東条内閣改造 蔵相は石橋莊太郎、農商相に内田信也
- ・男子一二歳〜六〇歳 女子一二歳〜四〇歳 国民登録
- ・二十日は海軍航空隊の日

- ・東条首相 陸相と参謀総長を兼任
- ・空家はすべて届出必要
- ・都心交通渋滞で時差出勤
- ・アメリカ サイパン島、テニアン島空襲
- ・毎日新聞「竹槍では間に合わぬ。飛行機だ」の記事で発禁差押え 記者は召集、編集幹部は辞職
- ・文部省 食糧増産に学徒五〇〇万人動員を通達
- ・呉海軍工廠で人間魚雷試作
- ・ラバウル方面の艦船、飛行機大打撃を受け、戦死者一三万人に
- ・大都市の一九劇場閉鎖決定

三月

- ・都内の配給 三日おきにネギ三本、五日に一度、魚ひと切れ
- ・国民職業指導所が国民勤労動員署に
- ・砂糖の配給停止
- ・東京の大衆食堂 外食券専用食堂に

- ・都内の酒店、バー、カフェ閉鎖
- ・全国の新聞夕刊廃止 朝刊二頁に
- ・二五歳未満の未婚者 工場へ派遣
- ・国民学校学童給食決定
- ・学徒勤労動員通年実施決定
- ・宝塚歌劇団 四日が最後の公演で観客殺到
- ・消防ポンプ車供出命令
- ・インパール作戦開始
- ・岩手県宮古 豪雪で死者一六四人
- ・上野不忍池が水田に
- ・集金、改札係など就業禁止 転職者激増するも好みに合った就職困難
- ・カナダに抑留中の日系人が虐待されていると米誌「タイム」が報道
- ・高等師範学校 三校増設
- ・国民学校卒の工場就職者八一七人 秋田から上京
- ・主要炭坑 軍需会社に
- ・横浜、名古屋などの高等商業を工業専門校に変換
- ・日ソ漁業協定 五年間延長
- ・日ソ間で北樺太の石油・石炭の利権移譲協定締結

- ・アメリカ パラオを空襲
- ・三菱、明治が合併し、東京海上火災保険（株）設立
- ・水豊ダム完成
- ・松竹少女歌劇団解散 芸能女子挺身隊結成
- ・連合艦隊司令長官古賀峯一の情報不明（四月五日戦死と発表）

四月

- ・義務教育年限一二歳に引き下げ
- ・一〇〇km以上の旅行は警察の証明書が必要
- ・寝台、食堂車、一等車廃止 急行削減。パンや湯茶の車内立ち売り営業
- ・六大都市の国民学校で一食七勺の給食開始
- ・六大都市の銀行当座預金 無利息に
- ・ギター、ジャズなど楽器大幅に禁止
- ・ハガキ三銭 封書七銭に値上げ 料金後納制採用
- ・映画上映時間を一時間四〇分に制限 平日三回、日曜日四回上映
- ・全国の出版社 大幅に統合

- ・一八歳未満の女子挺身隊の月収は五三円前後
- ・玄米粥や野菜入り雑炊食堂増加
- ・日銀貸出利率 従来の高率適用廃止
- ・薬局の売薬一五品目四五種に整理
- ・駐ソ連大使 独ソ和平斡旋使節の派遣を申し入れ ソ連拒否
- ・巡査の採用年齢一八歳に引き下げ
- ・食糧増産のため御料地開放
- ・都市居住者 身元票携帯義務
- ・都内幼稚園 無期限休園
- ・米穀供出報奨制決定
- ・牧師が高等女学校で聖書の講義をして拘引
- ・愛知化学工業(株)など四二〇余社が軍需工場に(第二次)
- ・志賀潔ら六名に文化勲章
- ・特殊兵器の「回天」「震洋」完成

五月

- ・全学校で野球、庭球禁止
 - ・輸入税の免除等に関する件公布
 - ・運転者不足深刻 普通車免許取得を一五歳に引き下げ
 - ・国民酒場開場 一人ビール一本か酒一合販売 求める人が長蛇の行列
 - ・名古屋で初の国鉄女車掌
 - ・富山県砺波村大火 焼失二七〇余戸
 - ・国技館が風船爆弾工場に 大相撲夏場所は後楽園球場で興行
 - ・女学校の工場化が進む
 - ・女子挺身隊参加低調で警視庁が再督促
 - ・宮本武蔵三百年祭 岡山市で開催
 - ・一三道府県に非常警備隊設置
 - ・アツツ島の日本兵玉砕
 - ・自家用塩製造は届出制
 - ・二十四日付の古川緑波の日記
- 「鋤をもって農場へ勤労奉仕に出かける。国民学校の生徒が来るのを待ちながら、谷崎潤一郎の『痴人の愛』を読んだ」

- ・健康保険法 厚生年金保険法公布
- ・全国保健所の統合整理

六月

- ・近畿日本鉄道（株）設立
- ・文部省に統計数理研究所設立
- ・連合軍 ノルマンデー上陸
- ・大日本言論報国会 ヒトラーに激励電報
- ・空襲警報中と解除後一定時 電話使用禁止
- ・米機四七機 八幡製鉄所爆撃
- ・アメリカ サイパン島上陸
- ・岡田啓介大将 島田海相に辞職勧告
- ・防空頭巾、三角巾常備 胸に本籍、氏名などの名札強制
- ・米穀供出割当を生産者に一元化 小作米は自家用を除いて代金納制に
- ・アメリカ副大統領 蔣介石と会談
- ・マリアナ沖海戦 海軍航空隊大打撃

- ・戦災時の預貯金支払い応急資金供給対策発表
- ・北海道洞爺湖畔で大噴火 昭和新山
- ・各種の下駄を七種に整理 価格も統制
- ・学徒動員令 女子挺身勤労令公布
- ・初等科児童の集団疎開促進決定
- ・木材、薪炭生産令公布
- ・海軍電波実験所開設
- ・魚眼にあるビタミンBでアメ型チョコレート強壯剤製造
- ・一〇円札の印刷開始
- ・大審院 不敬罪に問われた尾崎行雄に無罪判決

七月

- ・大本営 インパール作戦中止を命令
- ・沖繩の老幼婦女学童八万人を本土へ、二万人を台湾へ
- ・サイパン島玉砕 守備隊三万、四万人、一般住民一万人が各々自決
- ・国民学校高等科 中学低学年も学徒動員決定

- ・江戸時代から伐採禁止が続いた都有林五〇〇〇町歩の伐採決定
- ・十七日 米内光政入閣拒否
- ・十八日 東条内閣総辞職
- ・中央公論社、改造社 廃業を強いられて、両社月末解散 戦時下国民の思想指導上許し難い事実があるとされた
- ・ヒトラー暗殺未遂事件発生
- ・二十二日 小磯昭陸軍大将内閣成立
- ・アメリカ軍 グアム島上陸 続いてテニアン島上陸
- ・寿屋 軍用赤玉ポトワイン醸造開始
- ・「造言蜚言」は懲役一年の実刑判決
- ・一〇〇〇余の保育機関が一〇万円近く海軍省に献金
- ・この年 都の小学校三年以上の児童三〇〇余人が山梨、福島へ疎開

八月

- ・砂糖の配給停止
- ・帝国銀行 一五銀行合併 以後銀行の合併が続く

- ・都では木炭の代りに草炭を配給
- ・撮影禁止区域が拡大
- ・テニアン島の日本軍 約八〇〇〇人玉砕
- ・都の学童集団疎開 初の一九八人が上野を出発
- ・最高戦争指導会議設置
- ・一億国民総武装決定 竹槍訓練奨励
- ・アメリカ週刊誌『タイム』が、サイパン島での日本軍の自決を「不可解神秘的行為」と報道

- ・軍事上の理由で鎌倉の海水浴禁止
- ・緒方竹虎情報局総裁「圧戦気分は新聞が事実を書かないことに起因」と批判
- ・グアム島の日本兵一万八〇〇〇余人玉砕
- ・軍需省 兵器用にダイヤモンドの買上げ開始
- ・国鉄 不要不急の地方線を休止
- ・京成電鉄 初の女性運転士三人採用
- ・トラックのヘッドライトが一個に
- ・都は理容組合により頭髮を回収 防音防寒用フェルトなどの化学原料に
- ・B 29 大挙して九州北部、中国地方西部来襲
- ・沖縄からの疎開船 アメリカ潜水艦により沈没 死者 学童を含む一五〇〇余人

- ・学徒勤労令公布 大学、高専二年以上の理系一〇〇〇人のみ除外
- ・一二歳〜三二歳の未婚女子出勤開始
- ・向田邦子は『襷』の中で、
「私たち女学生は もんぺはいて、明日の命も知れないというのに、箸がころんでも笑っていた」と書いている。
- ・鹿児島県花岡鉱山で中国人強制労働
- ・東京、大阪、防空備蓄米五日分特別配給
- ・新兵器研究中事故死した京大助手に「助教授」と「博士号」を贈る
- ・ドイツ軍降伏 連合軍パリ入城
- ・重光外相 ドイツ大使に独ソ和平斡旋を提議するもドイツは拒否
- ・官庁 第一・第三日曜日出勤決定
- ・雑誌、書籍 A 5、A 6、B 5、B 6判の四種に制限
- ・台湾 徴兵制実施

九月

- ・唯物論の戸坂潤 入獄
- ・日産 日産重工業と改称
- ・高野山電鉄事故 死者約一五〇人
- ・汽車、トラックによる家財輸送禁止
- ・対ソ特派員使節派遣決定
- ・臨時軽金属増産対策本部設置
- ・プロ野球休止 大相撲は継続
- ・第八五回臨時国会召集
- ・中国雲南の二ヶ所で約三〇〇〇人玉砕
- ・騰越で約一五〇〇人玉砕
- ・警視庁 国会議事堂展望台を防空警戒用に利用
- ・日本勧銀など五銀行合併
- ・アメリカ マニラ方面空襲
- ・フィリピン 米英に宣戦布告
- ・七帝大に六ヶ月の研究補助技術員養成所設立
- ・早大卒業式 出陣学徒が軍服で出席

- ・五銭、一〇銭の少額紙幣発行決定
- ・一月から九月迄の疎開者約一〇〇万人　うち約四割が学童
- ・「人間魚雷　回天」「人間魚雷　伏竜」「人間ロケット弾　櫻花」「自爆モーターボート　震洋」など製造（注）
- ・三日がかりでアメリカ上空に達する風船爆弾が飛び立つ
- ・仏教・神道関係者　三〇万人の大日本戦時宗教報国会結成

十月

- ・警視庁に帝都防空本部を設置
- ・長期貯蓄の期限前払戻制実施
- ・近畿以東に台風　死者不明一〇〇余人
- ・アメリカ　沖繩を初空襲
- ・客車削減　特急全廃　貨車は増発
- ・台湾沖航空戦
- ・忠犬ハチ公の銅像供出
- ・満一七歳以上　兵役編入

- ・白金強制買上げ開始
- ・ハガキ　切手不足で貯めて贈り物にするケース増加
- ・吉田宙三ら白ネズミの悪性腫瘍を発見
- ・石油に代る松根油増産対策を練る
- ・レイテ沖海戦で海軍ほぼ全滅　戦艦「武蔵」も「帰らぬ神風特攻隊」相次ぎ出撃
- ・五銭、一〇銭紙幣　来月から発行　硬貨は軍需資材
- ・B 29約一〇〇機　北九州を空襲
- ・東京、横浜などガス会社三社合併
- ・たばこ十一月から配給制になるため、都内に一kmの行列ができる
- ・陸軍少年兵採用試験

十一月

- ・内閣に総合計画局を設置
- ・B 29　東京を初偵察
- ・たばこ　隣組で配給制　男一日六本
- ・大日本技術会結成

- ・鹿島灘などから風船爆弾九三〇〇発飛行開始
- ・東京女学院四年生全員 火薬原料にと毛髪を献納
- ・一個八銭の腐敗コロッケを五四銭で売ったヤミ業者に懲役一年、罰金一万円の判決
- ・尾崎秀実 ゴルゲの死刑執行
- ・スターリン 日本を「侵略国」と演説
- ・女子挺身隊の期間を一年延長
- ・汪兆銘 名古屋で死去
- ・梅沢博士らペニシリン完成を発表
- ・熊本も古綿回収開始
- ・「回天」攻撃実施（注）
- ・楽器生産停止命令
- ・競馬禁止
- ・B 29 東京に初の夜間リーダー標準爆撃 被害約九〇〇〇戸
- ・国民学校初等科 午前一時までに帰宅して空襲に備える
- ・B 29 約八〇機で東京初空襲
- ・都の救急車は九六台

十二月

- ・中学の新規卒予定者の勤労働員は継続
- ・「巨人」の沢村栄治投手戦死
- ・七〇機で東京空襲
- ・官庁の年末年始休暇廃止 官庁相互の賀状挨拶全廃
- ・大審院 統制法令で土地売買契約が不安定になる場合 事情変更による解除を認める
判決
- ・東海大地震と津波 死者約一〇〇〇人
- ・約四割に当たる七三〇余の映画館へのフィルム配給休止を通告
- ・一ヶ年の死者発表 米英軍三〇万四〇〇〇余人 日本側一六万八〇〇〇人 どこまで
信用できる数字か疑問
- ・レイテ決戦放棄
- ・大阪、名古屋空襲
- ・「メリーXマス 東京プレゼント」と書かれた焼夷弾 茨城県に落下
- ・ラジオ連続講座で「爆音による敵機の聞き分け方」放送
- ・天理ほんみちの大西愛治郎に不敬罪などで控訴審無期懲役の判決
- ・会社一〇九社が軍需会社に指定（第三次）

この年、旧制中学は五年制から四年制に短縮され、私たちは四年で中学を終えることになった。相変わらず授業は碌になく、開墾や農家の援助にあたった。すべてが戦争一色で埋めつくされ、女性は頭巾にモンペ姿で竹槍の練習やバケツリレー訓練、三八銃をかついで動き回る状態であった。

そのうち同級生から海軍予科練習生（予科練）として入隊する者も出た。これが最後と同級生揃って入隊記念に撮った写真が今も手元に残っている。こんな若さでと、ひとり一人の顔が蘇ってきて感極まる。生き延びた罪悪感のようなもので胸が詰まる。予想通り誰とも二度とまみえることはなかった。

今振り返ってみて、当時は辛い思いをしたことは事実だが、どうしてこんな目かというと「何故」の発想はなかった。戦う道に二つなしという歌の文句どおり、お国のためで当然と受け止めていた。戦場に送り出されたことを思えば、私の苦勞は何でもないではないか、とごく一部の人たちを除けば、皆そう思っていたと思う。戦後何かで読んだことだが、米国の調査結果で、昭和十九年中に敗戦を予想していた人はせいぜい一割だった。

戦時の出来事を並べていくと、戦争は一年足らずで窮地に追いつめられ、もう駄目だと感じて当然だと判る筈なのに、必勝の思いが変わらなかったのは、まことに頑固な洗脳を受け続けていたせいであろうか。戦況を見る幼さの故か。だから敗戦を知った時の驚きと不安は、今なお判然と脳裏に刻まれている。

この年の秋、私たちは学徒動員で故郷をあとにした。私たちの学年は二組に分かれ、一組は山口県徳山市沖の天津島にある「回天」製造工場へ向った。ここには現在「回天記念館」ができており、特攻隊で散った人たちの遺品などが展示されている。

もう一つの私たちの組は、呉海軍工廠の大入工場であった。本廠は呉軍港にあり、一般市民の目が届かないよう道路海側には延々と高い塀が続いていた。大入工場は本廠から数km東に離れた人家のない海辺にあり、やはり「回天」の製造にあたった。宿舎から徒歩で通ったのだが、生まれて初めての団体生活で、一番辛かったのは食事。田舎の我が家で不平を言ったことが、実に些細なことだったと身に染みた。米飯とは名ばかりで、大豆、さつま芋などの雑穀混じり、たまに家から送ってきた食料などがあるときは、皆で小躍りしながら分け合った。

工場での仕事は、鉄板にドリルで穴をあけるとか、鋷を打ち込むとか単純なものだったが、人を見て仕事を振り分ける感じは否めなかった。何にしても終始正装した海軍将校の眼が光っており、ときに罵声が飛んでくることもあったが、その若い将校も、やがては私たちが製造にかかわった潜航艇に乗り込んで出撃する運命にあった。人もろともに敵艦にぶつかる兵器は、日本独特のものと思っていたが、シンガポールで日本の巡洋艦「高尾」を襲った英海軍はすでに使用していたと後年になって知った。

工場が休みの日には家に帰ることもあった。そのある一日、級友と海辺の道を駅に向かって歩

いた時、突然アメリカ軍のグラマン機が低空飛行して来て、私たちを狙って機関銃掃射を始めた。生まれて初めての経験で、命からがら近くの樹木の蔭にと逃げ回って事なきを得たことが忘れられない。戦争は軍と軍とが戦うものだと思っていたのに、ひとけ人氣のない所を歩いている少年を襲うとは何たることかと憤懣ふんまんやるかたなかったが、これが戦争というものだと思ひ直した。もっともこの年六月にはすでに北九州が襲われ、連日のように空爆が始まるのだから何の不思議もなかったのだが……。

こうして年末が近づくころ、私は次第に体調がおかしくなった。激しい咳に悩まされ、朝は汗びっしょりで目覚める状態だった。診察の末、帰郷して加療するよう命じられ、工場をあとにすることになった。胸をやられていてしばらく通院生活を送ったが、この年同じ病いで姉も祖母も逝き、五年間のうちに母も姉二人を喪った。何れも肺結核であった。

荷風の『断腸亭日乗』四月十一日に食料のヤミ値を次のように書いている

- 一、白米一升 金拾円也
- 一、するめ一枚 金一円也
- 一、酢一合 金一円也
- 一、沢庵一本 五円也
- 一、食麵しよくパン麩一斤 金貳円四拾銭也

- 一、鶏肉一羽 金貳拾五円也
- 一、醬油一升 金拾円也
- 一、鶏卵一個 金七拾銭也
- 一、バター一斤 金貳拾円也
- 一、砂糖一貫目 金百貳拾円也

鶏肉一羽とか、砂糖一貫目とかいうのは些か違和感があるが、ヤミ屋の扱うものとなれば納得できる。

舌鋒鋭く世の流れを批判してやまなかつた清沢洌は、六月二十八日付の『暗黒日記』に次のように書いた。

“国際関係研究会で「戦後の日本の外交政策」を研究する筈であった。しかるに、この信ずべき人々の間でも、「日本がもし敗れたならば」という前提の下には何人も話さない。三人以上いるところで話したことは、必ず憲兵隊に洩れるそうだ。……”

本土空襲は日毎に激しくなっていた。東京は前後一〇〇回にも上る爆撃で焼け野原の状態となり、名古屋、大阪をはじめ一〇〇を数える市町など平均半数の家屋が灰塵に帰したといわれる。灯りが外にもれると怒鳴られる激しい灯火管制も如何ほどの益があったのか。

食料のみならず、生活用品にしてもギリギリのところまで逼迫しており、マッチに困って夕

バコにつける火もレンズを使うという話を耳にした。しかし「欲しがりません 勝つまでは」が合言葉。何しろ国家予算の八割以上が軍事費だったというのだから、生活の様も察しがつくというもの。

読まれたもの 刊行

辻善之助『日本仏教史』 陸軍報道部『必勝国民読本』

松村秀逸『宿敵米英を撃て』 竹内好『魯迅』 谷崎潤一郎『細雪』

三島由紀夫『花ざかりの森』 太宰治『津軽』 獅子文六『おばあさん』

中村汀女『汀女句集』 三谷隆正『幸福論』 『文芸』（河出書房）

（創刊）

『日本文学者』

映画

『怒りの海』 『還つて来た男』 『維納物語』 『一番美しく』 『激流』 『陸軍』

『日常の戦ひ』 『五重塔』 『加藤隼戦闘隊』 『轟沈』 『敵は幾万ありとても』

『雷撃隊出動』 『君こそ次の荒鷲だ』 『肉弾挺身隊』 『神風は吹く』

『あの旗を撃て』

当時の作品二二六本が戦後GHQにより上映禁止・焼却処分になっている。

歌謡 軍歌

『ラバウル小唄』 『ああ紅の血は燃ゆる』 『同期の桜』 『一億総進軍の歌』

『轟沈』 『勝利の日まで』 『少年兵を送る歌』 『突撃ラッパ鳴り渡る』

『僕は空へ君は海へ』 『水兵さん』 『君こそ次の荒鷲だ』 『予科練』

落語

『大日本芸能会』 傘下「日本演芸協会」発足

演劇

俳優座設立（東野栄治郎ら）

能

能楽師協会設立

物 価

日本酒一級一二円 ビール一円三〇銭 ミルクコーヒー一五銭 散髪七五銭
ライスカレー四〇銭 映画館入場料九七銭

昭和二十年（一九四五）

一月

- ・アメリカ週刊誌『タイム』が、日本の風船爆弾が太平洋を越えて、アメリカのモンタナ州に落下したと伝える
- ・東京簡易電話所新設
- ・清沢洌が「蛮力が国家を偉大にする考えを捨て、明知のみがこの国を救うものである事をこの国民が覚えるように……」と国の将来を案じた。
- ・三日 大阪初空襲 名古屋、東京も続く
- ・所得税率引き上げ
- ・銀の供用で富山、長野、岡山、福井の各県が目標達成
- ・アメリカ軍 ルソン島上陸
- ・回天攻撃隊 ニューギニアで活躍
- ・東海大地震 死者二〇〇〇余人
- ・十六日 京都初空襲
- ・十九日 阪神地区空襲